

## 歯科治療の経年変化について（1）

皆様は、歯科医院で歯科治療を受けられた後に、治療部位の歯がどのような経過をたどると思われますか？ もしくは、数年後どのような結果を招くと思われますか？

患者さんが、歯科医院を訪れる時は、痛みや腫れが有る時、または食物が食べられない状況の時が多いでしょうが、その時には、大体は、痛い治療が待っています。 歯科医院への受診や健康診断をしていないからと言って、歯科医は皆さんをいじめるようなワザと痛い治療をするわけではありません。 問題となる歯科治療では、痛みを伴う様な状況が大半だからです。 当然皆さんが一番嫌いな麻酔注射が必要となります。 問題はそれだけではありません。 たいていは、1~2回での治療では終わらないという事です。 忙しい毎日で、できるだけ歯科医院は行きたくない。と、考える方々にとって、「なぜ、こんな小さな歯の治療が何回も掛かるのか」「どうしていつも少しの時間しか治療してもらえないのか」「お口の中の治療をまとめて全部一度でもらえないのか」などの声を聴くことが有りますが、患者さん方の気持ちはわかりますが、それは無理と言うものです。

先ずは、いろいろと理由は有るのですが、虫歯の進行程度（カリエス度）の1~2度と言う程度が軽いもので有れば、1~2回で、場合によっては深いものは、様子を見て3回くらいで治療完了となります。 その後、通常の虫歯予防の歯磨き等で、持たせていく事となりますが、永久的に持たせる（再治療無し）という事は出来ません。

歯科治療箇所は、早い場合は、3~5年くらい後で、場合によっては10年くらい後で、必ず将来は再治療が必要となるのです。（理由は、後段の方に譲ります） 子供さんの場合は、乳歯であれば、1~2年くらい後で、詰め物が欠ける、取れる。 という経過をたどることが多いでしょうか？これは、お口の中がどんどんと成長発育をして変化していく事と関係が有ります。 身長伸びと共に顎の骨も成長発育して大きくなっていく事で、噛み合わせが変化します。 乳歯から永久歯に生え変わりながら歯列（歯並び）も変化します。 すると上下で噛み合わせた時に当たる場所や当たり方が変化する事で、噛み合わせのバランスが変化します。 今まで当たらなかった場所が当たるようになったり、当たらなくなったり、歯が生え変わる事でその部分に強い咬合の力が突然かかる様になったりと、劇的変化の中でお口の中は噛む力の伝わり方が変化します。 その結果が詰め物や銀歯が取れる原因と成ります。 また、場合によっては歯ぎしりもその原因の一つとなります。 一度治療したら生え変わるまで長期にわたり再治療をしないで行くことは、珍しい事なのです。（つづく）